＜様式１＞

令和７年度　江東区立第二大島小学校　自己評価表

校長名　　佐香　哲哉

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域１	確かな学力の保障【深く考える子ども】				
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	◇すべての教員が「学び方スタンダード」に基づいた指導を100%実施し、その定着を目指す。（教員アンケート①）	98%	◆「学び方スタンダード」の定着に関する自己評価において、肯定的評価の割合を９割とする。（児童アンケート⑥80%）	89%	B
2	◇すべての教員が学年の実態や教科の特性等に応じ、体験的な学習やＩＣＴを活用した授業を計画的に行い、主体的に学習に取り組む態度を育てる。（教員アンケート②）	99%	◆学習意欲に関する自己評価において、肯定的評価の割合を９割とする。（児童アンケート⑩87%）	97%	A
3	◇すべての教員が児童相互の学び合いを重視し４５分後のゴールを意識した授業を心がけ、思考力・思考力等を育てる。（教員アンケート③）	99%	◆「先生の教え方はわかりやすいですか」（学校生活アンケート）に対する肯定的評価を９割とする。（児童アンケート②94%）	104%	A
＜結果についての分析と改善策＞ ・高学年になるにつれて学習内容が難しくなる。より習熟度に合わせた授業を展開していく。学習意欲には個人差がある。基礎基本を押さえ学習意欲や興味関心引き出す授業をするために、教員の授業力向上に重点をおき、「学び方スタンダード」の徹底、0JT 研修や校内研究を充実させる。					

重点領域２	豊かな心の醸成【思いやりのある子ども】				
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	◇いじめ等に関するアンケートや個別面談等を全学級で年３回実施し、いじめ等問題行動の未然防止と早期対応に努める。（教員アンケート④）	100%	◆「いじめ見逃し０」「不登校０」を目指す。（いじめアンケート 100%）	100%	A
2	◇すべての教員が、児童のよさを認め励ます指導を行うとともに、児童に寄り添った指導を心がけ、学級の安定を図る。（教員アンケート⑤）	100%	◆「学校は楽しいですか」（学校生活アンケート）に対する肯定的評価を１００%とする。（児童アンケート①88%）	88%	B
3	◇人権教育担当及び道徳教育　推進教師を中心に、それぞれの教育活動の充実を図り、思いやりの心を育む。（教員アンケート⑥）	99%	◆「子どもたちに思いやりの心が育っている」（保護者アンケート）に対する肯定的評価を９割以上とする。（保護者アンケート⑥91%）	101%	A
＜結果についての分析と改善策＞ ・学校いじめ防止基本方針に基づいた取組により、引き続き「いじめ見逃し０、不登校０」を目指し、学校いじめ対策委員会を中心にいじめや問題行動の未然防止、早期発見・早期解決に努める。 ・昨年度「学校は楽しいか？」の問いに対して肯定的に答えた児童は 90%だったが、今年度は 88%の評価だった。児童が活躍できる主体的な取組や場の設定の工夫がさらに必要である。今後も児童が毎日楽しく学校生活を送れるような環境を整えていく。					

＜様式１＞

重点領域３	心身の健康の保持増進【元気な子ども】				
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	◇すべての教員が「体力スタンダード」に基づく指導や体力テストの結果を有効に活用した指導を行い、体力等の向上を目指す。（教員アンケート⑦）	98％	◆体力テストの平均が江東区の平均と同程度を目指す。（体力テスト　98%）	98％	A
2	◇すべての教員が、体育朝会や体育授業の充実、長チャレ・持久走・縄跳び等に積極的に取り組み、運動の日常化を図る。（教員アンケート⑧）	98％	◆「休み時間の過ごし方」（学校生活アンケート）に対して「外遊び」と答える児童の割合を９割以上とする。（児童アンケート⑦81%）	90％	A
3	◇すべての教員が、健康教育を推進するとともに、基本的生活習慣の定着を図る。（教員アンケート⑨）	99％	◆自分の健康だけでなく、周囲の人への健康にも関心をもち、その保持増進に努める児童を育てる。（保護者アンケート⑨88%）	88％	B
＜結果についての分析と改善策＞ ・昨年度「外遊び」数値が 89%で、今年度は 90%であった。外遊びは、個人差が大きく、高学年ほど外遊びをしない傾向がみられる。外に出るような積極的な呼びかけや、クラス遊び等工夫をしていく必要がある。					

重点領域４	信頼される学校の創造【開かれた学校づくり】				
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	◇学校便りの他、ＨＰ・メール等により、広く情報を発信するとともに、保護者アンケートを有効に活用し、双方向のコミュニケーションを図る。（教員アンケート⑩）	100％	◆情報発信・説明責任に関する保護者アンケートにおいて、肯定的評価の割合を９割以上とする。（保護者アンケート⑩92%）	104％	A
2	◇すべての教員が初期対応の重要性を認識し、危機意識・当事者意識をもって課題解決に努める。（教員アンケート⑪）	100％	◆児童の問題行動に対する学校の対応に関する保護者アンケートにおいて、肯定的評価を９割以上とする。（保護者アンケート⑪93%）	103％	A
3	◇服務事故防止研修を計画的に実施し、体罰・セクハラはもとより、暴言・行き過ぎた行為・不適切な指導の根絶を目指す。（教員アンケート⑫）	100％	◆「体罰・セクハラ・暴言等０（ゼロ）」を目指す。（保護者アンケート⑫90%）	90％	A
＜結果についての分析と改善策＞ ・保護者が学校と相互のコミュニケーションに対して「あまり当てはまらない」と回答した保護者が８％だった。学校からの一方的な情報の発信だけでなく、いつでも相談できる信頼関係をこれまで以上に図っていく。月に１回設定されている「ふれあいの日」の目的を明確にし、相談しやすい環境づくりに努める。 ・学校全体で「体罰・セクハラ・暴言等０（ゼロ）」という風土・雰囲気づくり、日常的な振り返りと研修の充実により、服務規律の徹底を図っていく。					

【評語】成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。
Ａ：９０％以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）
Ｂ：５０％以上９０％未満
Ｃ：５０％未満（目標や努力指標等を見直す）